

# 原発のメリットは？

# 原発のおかげで安い電気代？

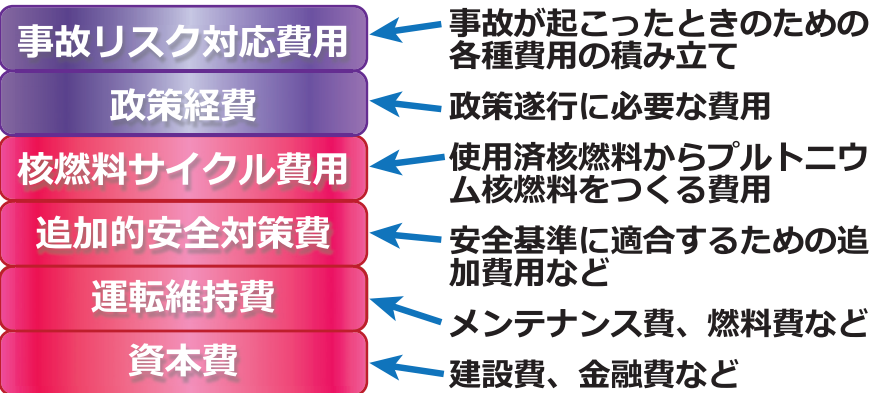
## 原発を支持する人たちの主張



原発は燃料費がほとんどかからない。火力発電は膨大な燃料費がかかる。だから、火力を減らして原発を増やせば、電気代は安くなる。

## 発電コストの内訳

社会的費用  
発電原価



【資料出典】  
資源エネルギー庁「原発のコストを考える」  
<http://www.enecho.meti.go.jp/about/special/tokushu/nuclear/nuclearcost.html>

## 原発の発電コスト試算

2015年 資源エネルギー庁試算	10.1円 / 1kWh
2016年 資源エネルギー庁試算	12円 / 1kWh
2017年 日本経済研究センター試算 原発	14.7円 / 1kWh
石炭発電	11.9円 / 1kWh
液化天然ガス発電 (LPG)	8.4円 / 1kWh

【資料出典】  
2015年資源エネルギー庁試算は「総合資源エネルギー調査会発電コスト検証ワーキンググループ」報告  
2016年資源エネルギー庁試算は「原子力政策・需給問題等調査会」配布資料  
2017年日本経済研究センター試算は「福島原発事故等の事故処理費用は50兆円から70兆円になる恐れがある」とする分析レポート

上記のように、発電コストは燃料費だけで決まるものではありません。原発の場合はむしろ、追加的安全費用や事故リスク対応費用が大きく占めています。ですから、燃料費だけで発電コストを比較するのは誤りなのです。

- 原発を支持する人たちは「原発はほとんど燃料費がかからないのに対して火力発電は膨大な燃料費がかかる。だから原発を増やせば電気代が安くなる」と主張する人が多いのです。
- もっともらしい話ですが、この話はウソに近いと言ってもかまいません。
- というのは、発電コストはなにも燃料費だけで決まるのではないからです。表のように「事故リスク対応費用」「政策経費」「核燃料サイクル費用」「追加的安全対策費」「運転維持費」「資本費」などで構成されています。
- それぞれの費用の重みは発電手段によって大きく異なります。たとえば石油火力発電では、燃料費が全体の約6割を占めますし、燃料費がまったくかからない太陽光発電では資本費が7～8割を占めます。原子力発電では、事故リスク対応費用、追加的安全対策費、運転維持費などが大きな割合を占めています。
- 例えば、経済産業省資源エネルギー庁は、2015年原発発電コストを10.1円 / 1kWhとしましたが、このとき事故対応リスク費を約9.1兆円と想定していました。翌年の2016年には21.5兆円としたために、発電コストが大きく変わりました。また、日本経済研究センターは、事故対応費を50兆円から70兆円と試算したために、原発の発電コストを14.7円 / 1kWhとしました。

● このように、発電コストを燃料費だけ比較して安い、高い、を言うのは子どもだましに近いトリックと言えます。

